

論点① リハビリテーションマネジメントの推進

論点①

- 生活期リハビリテーションは、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を可能とし、その自立を促すために、心身機能、活動、参加にバランスよく働きかけることが重要である。
- リハビリテーションマネジメント加算は、リハビリテーションの質の向上を図るため、多職種が共同して、心身機能、活動、参加について、バランスのよいリハビリテーションが提供できているかを継続的に管理していることを評価している。
- 訪問リハビリテーション計画や実施内容は、リハビリテーションマネジメント加算の算定にかかわらず、筋力増強訓練や歩行訓練が多く、ADL訓練やIADL訓練の実施は一部にとどまる。
- リハビリテーションマネジメント加算の算定率は、事業所ベースで（イ）16.2％（ロ）30.6％、利用者ベースで（イ）11.2％（ロ）29.7％となっている。
- 生活期のリハビリテーションにおいて、利用者の日常生活の自立を促すためのリハビリテーションを推進する観点から、どのような対応が考えられるか。

対応案

- 生活期リハビリテーションにおいて、居宅における利用者の日常生活の自立を促すために心身機能、活動、参加にバランスよく働きかけるリハビリテーションを推進する観点から、以下をリハビリテーションマネジメント加算の算定要件として明確化してはどうか。
 - ①リハビリテーション会議において、利用者の居宅における活動や参加の状態を共有し、活動や参加の目標及び目標を踏まえたADL訓練やIADL訓練等を含むリハビリテーション計画を設定すること
 - ②リハビリテーション会議において、目標の達成状況を報告し、必要に応じてリハビリテーション計画を見直すこと

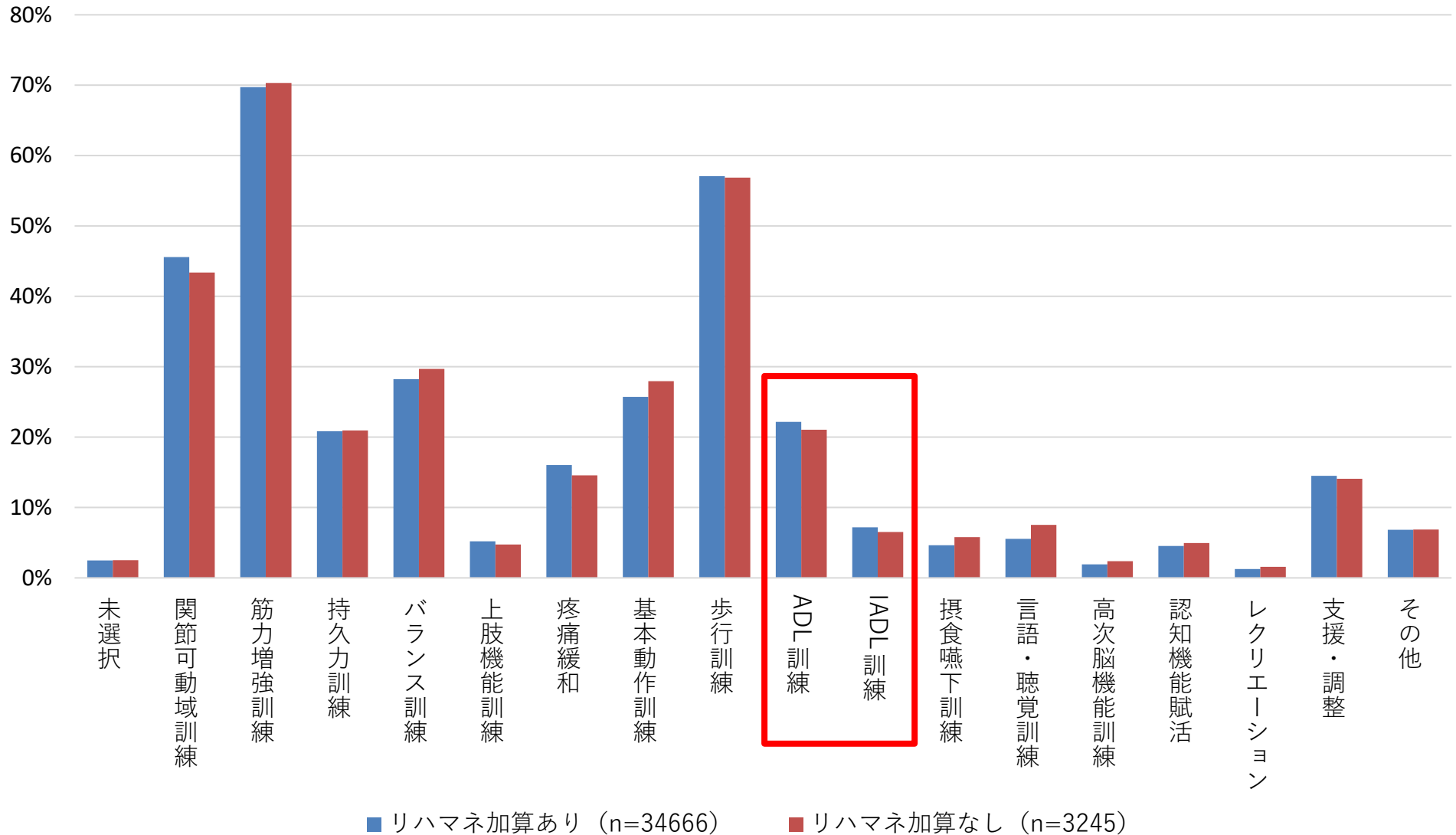
リハビリテーションマネジメント加算の算定率

	請求事業所数	算定率 (事業所ベース)	利用者数	算定率 (利用者ベース)
通所リハビリテーション	7655		416393	
リハビリテーションマネジメント加算（イ）	1115	14.6%	32362	7.8%
リハビリテーションマネジメント加算（ロ）	2986	39.0%	135158	32.5%
リハビリテーションマネジメント加算（ハ）	806	10.5%	46174	11.1%
リハビリテーションマネジメント加算（医師説明）	2813	36.7%	125258	30.1%
訪問リハビリテーション	5747		123086	
リハビリテーションマネジメント加算（イ）	932	16.2%	13743	11.2%
リハビリテーションマネジメント加算（ロ）	1758	30.6%	36613	29.7%
リハビリテーションマネジメント加算（医師説明）	1702	29.6%	33729	27.4%

【出典】介護保険総合データベースの任意集計（令和7年11月審査分（令和7年10月サービス提供））より老健局老人保健課にて作成

訪問リハビリテーション計画の内容

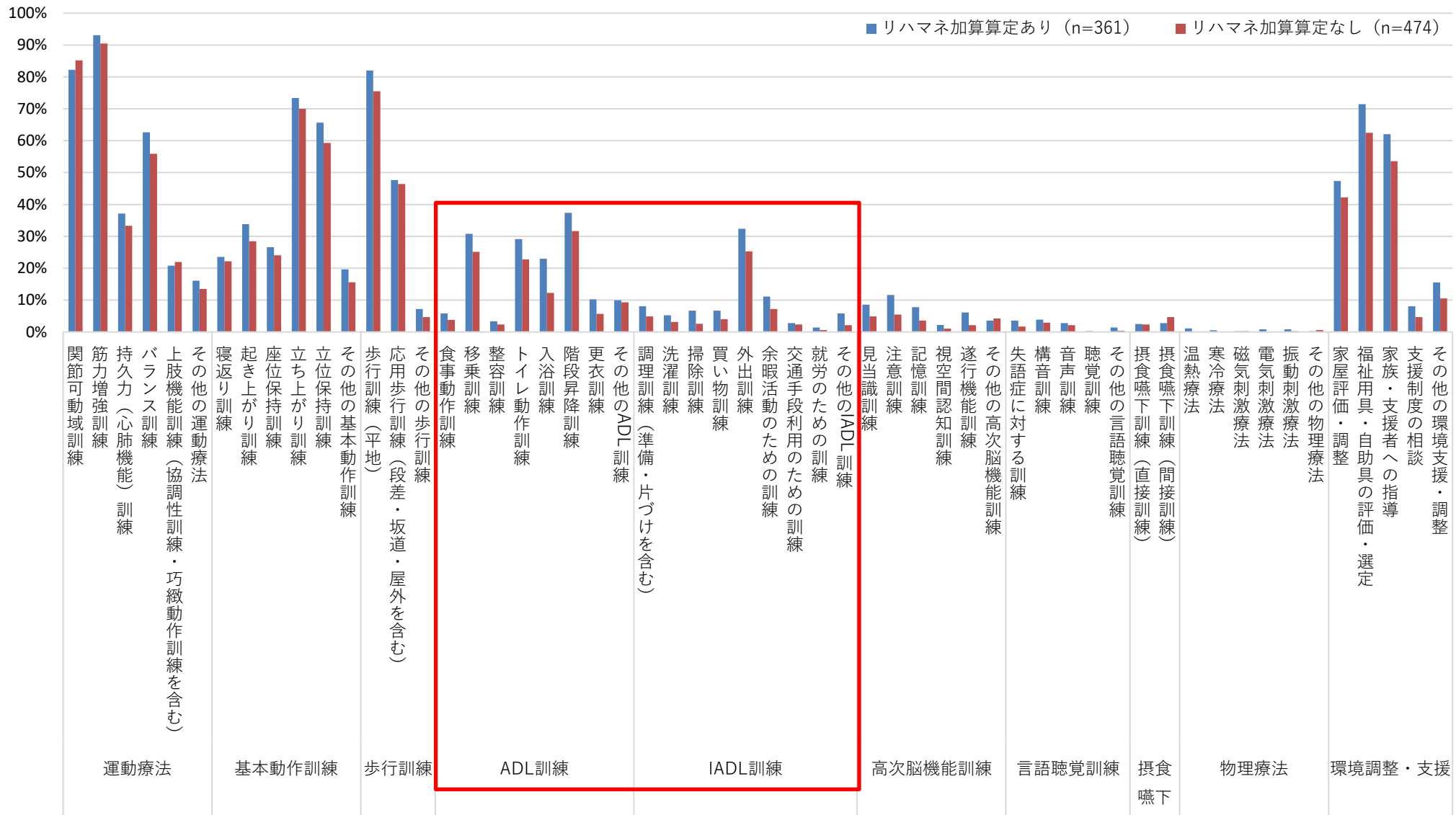
○リハビリテーション計画の内容は、リハビリテーションマネジメント加算の算定の有無に関わらず、筋力増強訓練、歩行訓練が多く、ADL訓練やIADL訓練は少ない。



【出典】介護保険総合データベースのLIFEデータの任意集計（令和7年10月～12月審査分）より老健局老人保健課にて作成

訪問リハビリテーションで実施された内容（リハマネ加算算定の有無）

○実施内容はリハビリテーションマネジメント加算の算定の有無に関わらず、筋力増強訓練、関節可動域訓練、歩行訓練が多く、ADL訓練やIADL訓練は少ない。

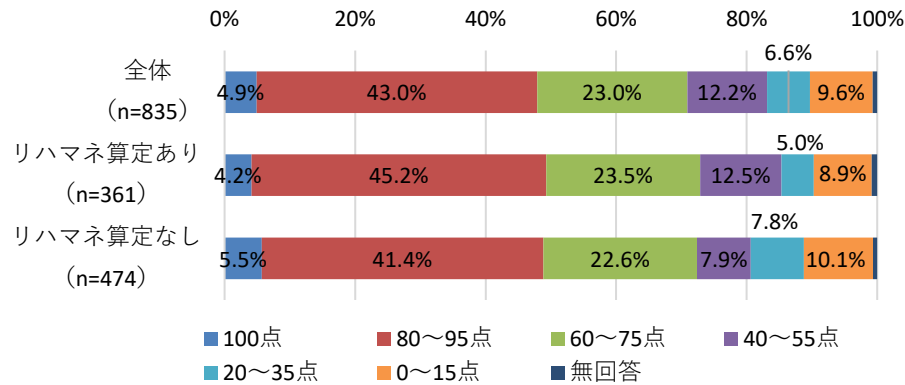


【出典】 通所・訪問リハビリテーションの適切な在り方についての調査研究事業（令和7年度老人保健健康増進等事業）

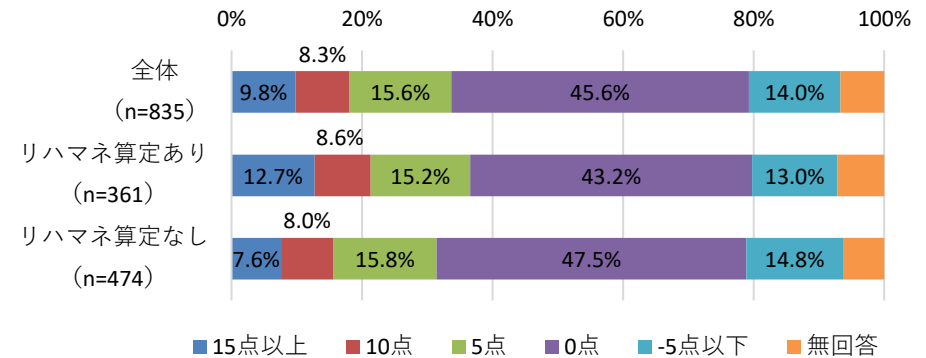
(訪問リハビリテーション) リハビリテーションマネジメント加算とADL、IADLの変化

○リハビリテーションマネジメント加算算定の有無によるADL、IADLの変化の違いは認められなかった。

■利用開始時のADL (BI)

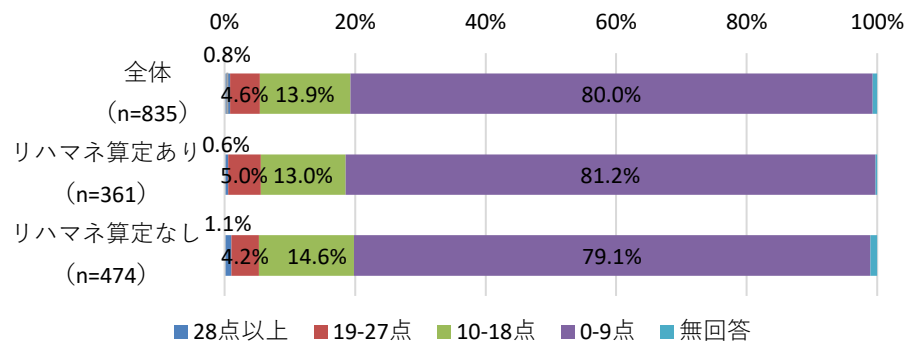


■利用開始から6ヶ月後のADL (BI) の変化

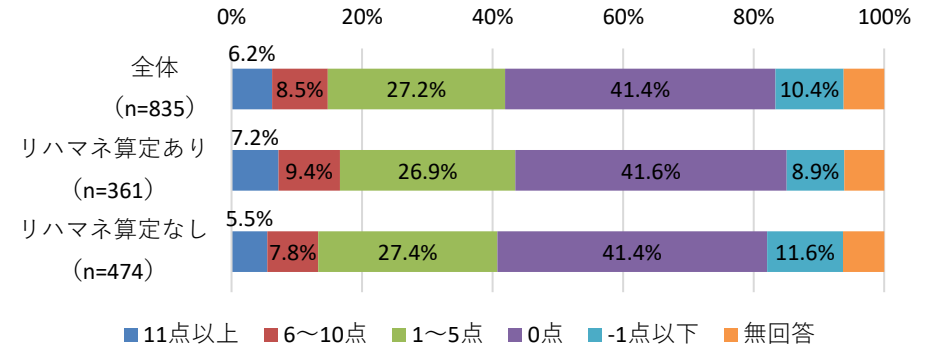


※Barthel Index (BI) はADL（日常生活動作）の自立度を評価する指標であり、10項目からなる。
総計は0～100点であり、点数が高いほどADLの自立度が高い。

■利用開始時のIADL (FAI)



■利用開始から6ヶ月後のIADL (FAI) の変化



※Frenchay Activities Index (FAI) はIADL（手段的日常生活動作）の実施頻度を評価する指標であり、15項目からなる。
総計は0～45点であり、点数が高いほどIADLの実施頻度が高い。

【出典】 通所・訪問リハビリテーションの適切な在り方についての調査研究事業（令和7年度老人保健健康増進等事業）